

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カスガダイ凸凹文化教室		
○保護者評価実施期間	6年 4月 1日 ～ 7年 3月 1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19 (回答者数)	19
○従業者評価実施期間	6年 4月 1日 ～ 7年 3月 1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業内にグループホーム、ショートキ、就労A,就労B,放デイの5拠点がある複合施設なので、幅広い年齢層の方々と関わることが出来る。また、放デイ卒業前の高校生は事業所内にて就労体験など、たくさんの経験が出来、移行支援をすることも出来る。地域の方々とも交流ができる場所となっている。	文化教室とグループホーム合同で夏祭りを行い、グループホームの方々にお店屋さんになってもらい、お祭り体験を行っている。 イベントとして地域の方参加型で流しそめんを開催し、イベントと一緒に参加交流をしている。 高校卒業後に向けて就労A、Bの体験時間を定期的に設け就労に向けて練習を行っている。	他拠点と連携を深め、支援プログラムを共有し、目的を伝え、協力してもらいたくさんの経験ができるように、定期的に交流する機会を沢山作る。
2	放デイの隣がグループホームとなっている為、自由に行き来できる環境となっている。また、鍵や扉がない為、縛りのない空間で過ごしている。	グループホームの方と一緒におやつを食べたり、散歩に出かけたりできる仲。グループホームと常に行き来しているため、グループホーム職員とも慣れ親しんでいる。	他部署のお手伝いも自分で進んで行動できるようにして行きたい。他拠点と連携し、子ども達だけで行き来できるように空間を増やし交流を深めていきたい。
3	同敷地の就労Bでは、コロッキスタンドや駄菓子を売っている為、おやつを自分で選んで決めている。	自分の好きなおやつを選ぶ事。自分でお金を支払う練習もできる。お友達と一緒におやつを選んだり、買い物のお囲気を楽しみ、体験の幅を広げることに繋がっている。	他拠点と連携し、放デイ以外の職員から声掛けや、見守りをしてもらい一人で買い物体験ができるようにしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用人数も増えた事で、人数に対しての面積が少なく、狭く感じるとの声があった。		活動内容により、分散して過ごすようにしている。必用に応じて、事業所内の寺子屋を貸し切りにして余裕ある空間で過ごせるようにしている。
2	感染症の対策	複合施設ということもあり、感染症対策を各拠点ですっかり行うことをしているが、感染が広がる心配もあった。	感染症が疑われたり、感染症の方が多い時は、グループホームとの扉を閉め、しっかり換気をし、施設内で情報共有しながら、感染症を他部署に持ち込まないように徹底して行く。
3			